

有限会社舞子運送

健康経営を軸に、 社員と地域を守り続ける物流インフラ企業



有限会社 舞子運送

代表取締役
河原 靖典

従業員数

67名

設立

1961年

事業概要

運送事業、廃棄物事業

物流インフラを支える企業としての責任

当社は一般貨物輸送に加え、神戸市の一般廃棄物処理や兵庫県内の産業廃棄物収集運搬を担い、地域の物流・生活インフラを支える企業です。「止まってはいけない仕事だからこそ、安全と信頼が何より大切」であり、事業の根幹にあるのは“人”だと考えています。

当社のサステナビリティ経営は、環境や社会貢献を意識した特別な取り組みから始まったものではありません。



「社員を守り、地域とともに続いていく企業でありたい」という想いから、日々の経営の中で自然に形作られてきました。

一人の社員の出来事をきっかけに 始まった健康経営

2017年夏、ある社員が体調不良を訴えて帰宅した直後、命に関わる重篤な病気であることが判明しました。幸いにも一命を取り留め、半年後に職場復帰を果たしましたが、この出来事は私の考えを大きく変えるきっかけとなりました。

それまでは「社員の健康は本人や家族が守るもの」と考

えていましたが、大切な社員が突然いなくなるという可能性を目の当たりにし、「会社として、もっと社員の健康に関わらなければならない」と強く感じました。これをきっかけに、舞子運送の健康経営が本格的にスタートしました。

できることを一つずつ積み重ねた健康施策

健康経営の第一歩として取り組んだのは、協会けんぽの健康宣言への参加でした。日々の点呼時に体重・血圧・体温を測定し、週1回の簡易心電図測定、年1回の健康診断を全員が受診しています。

再検査や精密検査が必要な場合は、会社が最後までフォローします。産業医の確認が取れるまで運転業務には就かせない体制を整えました。

当初は「自分たちは健康だから大丈夫」という声もありましたが、毎年実施している社員アンケートでは、「会社が社員の健康増進に積極的に取り組んでいる」と感じる社員の割合が3割程度から8割程度へと大きく向上しています。





テクノロジーを活用した 安全・健康管理の進化

近年は、スマートウォッチを活用した心拍数の常時モニタリングを導入しました。急激な心拍変動や眠気の兆候が検知されると、運行管理者が確認し、休憩や軽い運動を指示する仕組みを構築しています。



さらに、脳トレーニングアプリを用いた「脳体カトレーニング」も毎日実施しています。記憶力や認知機能の変化を本人が自覚できることで、「今日は慎重に運転しよう」といった意識が生まれ、より安全な運転行動につながっています。

これらの取組みにより、事故件数の減少や、社員一人ひとりの仕事への意識向上といった効果も実感しています。

地域とともに歩む、多面的な社会貢献

舞子運送では、健康経営にとどまらず、地域との関わりも大切にしています。就労支援A型事業所を運営する一般社団法人「まいらいふ」を通じ、障がいのある方の就労機会創出に取り組むほか、農福連携の一環として、いちご栽培にも挑戦しています。社員や取引先を招いたいちご狩りは、社内外の交流の場としても親しまれています。



また、廃棄物収集事業では、2007年からGPS付き記録装置を全車両に導入し、排出量データを長年にわたり蓄積しています。もともとは運搬費用算定のために始めた取組みでしたが、現在では学校や企業からの要請に応じてデータを提供するなど、環境に配慮する意識の醸成や、透明性の高い事業運営につながっています。

健康経営を軸に 物流インフラ企業として歩み続ける

サステナビリティ経営は、特別なことではなく、日々の業務改善の積み重ねだと考えています。社員の健康と安全を守り、地域社会とともに成長していくことが、物流インフラを支える企業としての責任を果たし、持続的な発展につながるという信念のもと、舞子運送はこれからも健康経営を軸に歩み続けます。

ここがポイント!

- 健康経営を「経営の中核」として位置付けている点
- できる取組みから始め、継続によって成果を高めている点
- 社員・地域・環境を一体で捉えたサステナビリティ経営を実践している点